



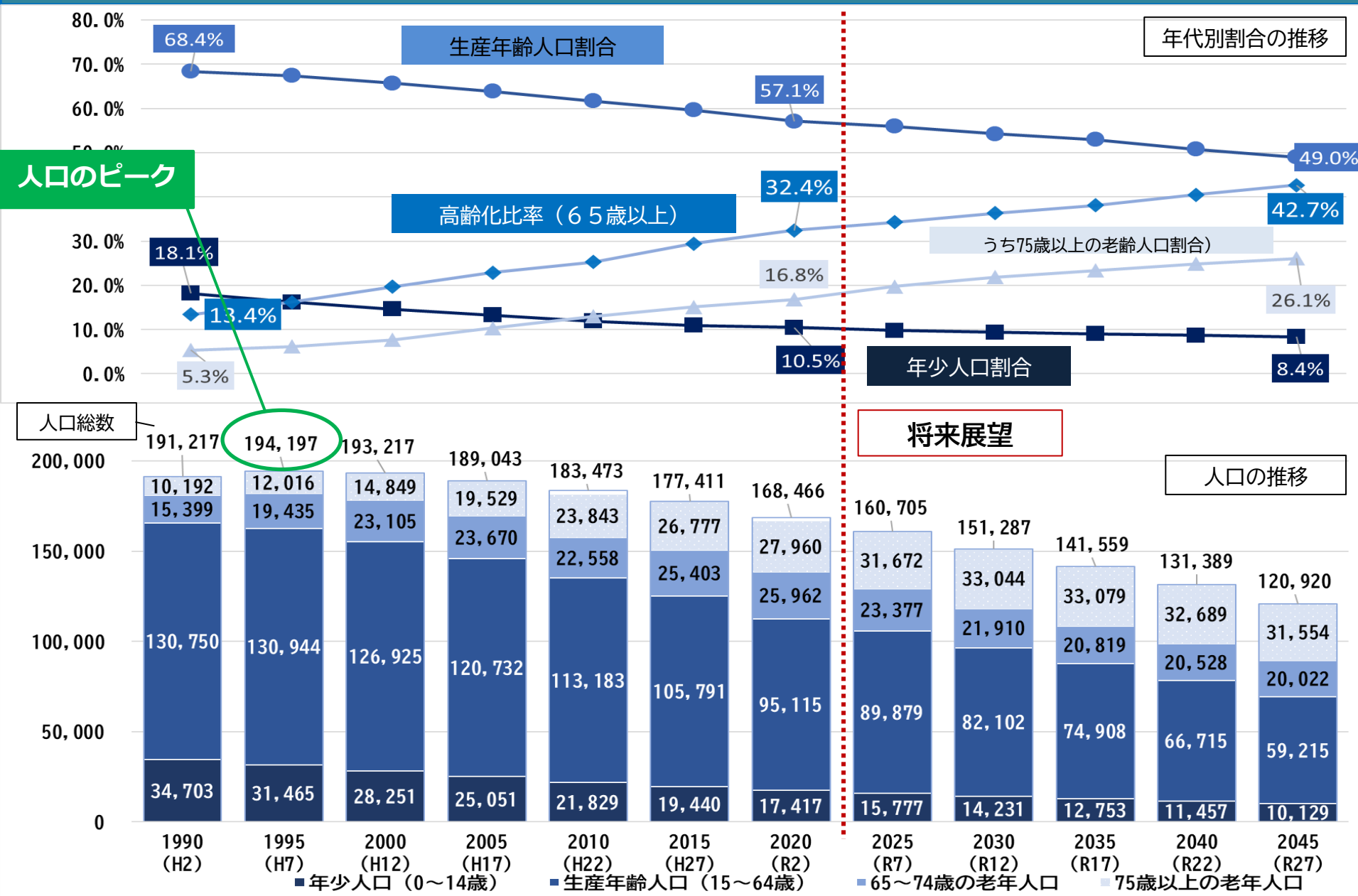
弘前市の 移住・定住推進事業

作成：弘前市企画部企画課人口減少対策担当

■ 弘前市の人口の現状

■ 移住・定住推進の施策

人口推移と将来推計人口



人口推移と将来推計人口

2020年（令和2年）3月1日現在の
住民基本台帳による人口

…17万人を割る

→国勢調査との比較で45年ぶり

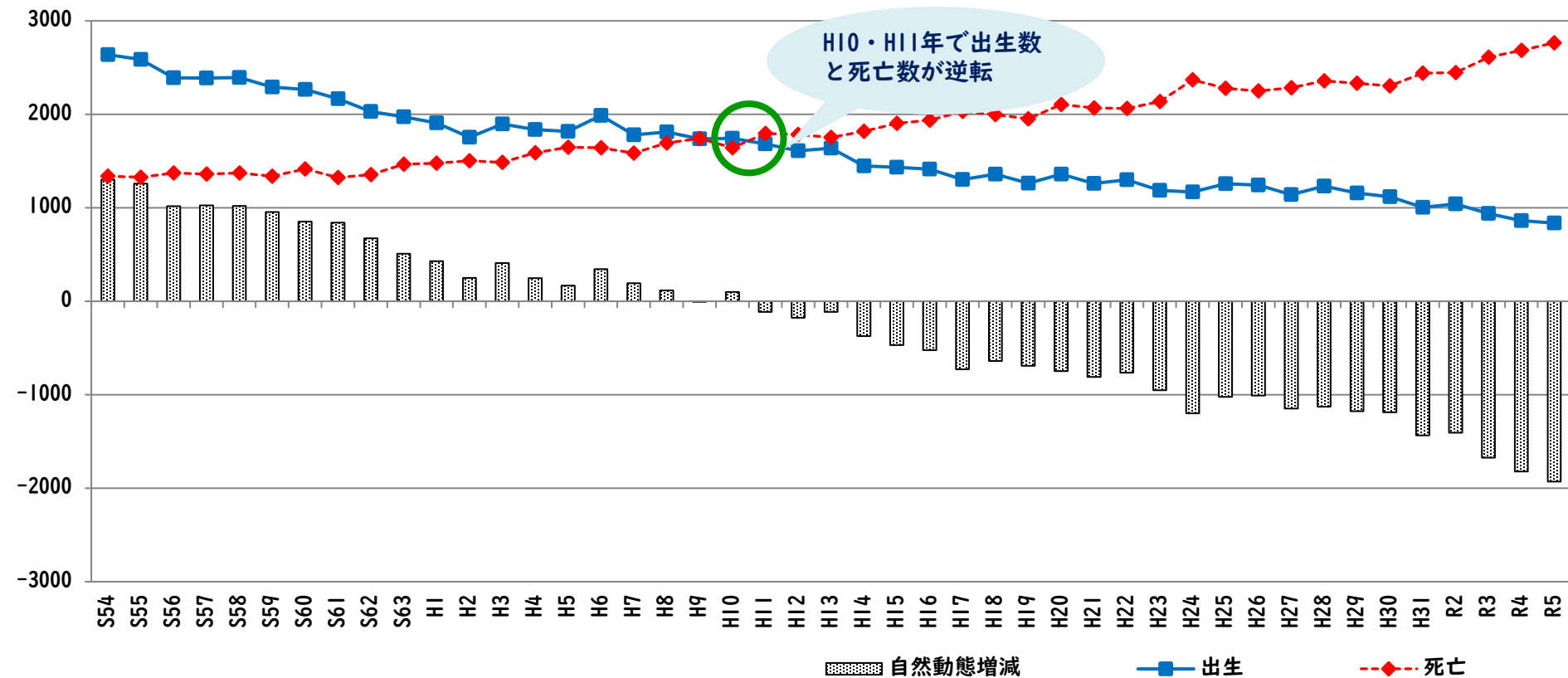
※2024年（令和6年）

7月1日現在 159,899人

→推計よりも早く人口が減少

（ひろさきオープンデータより）

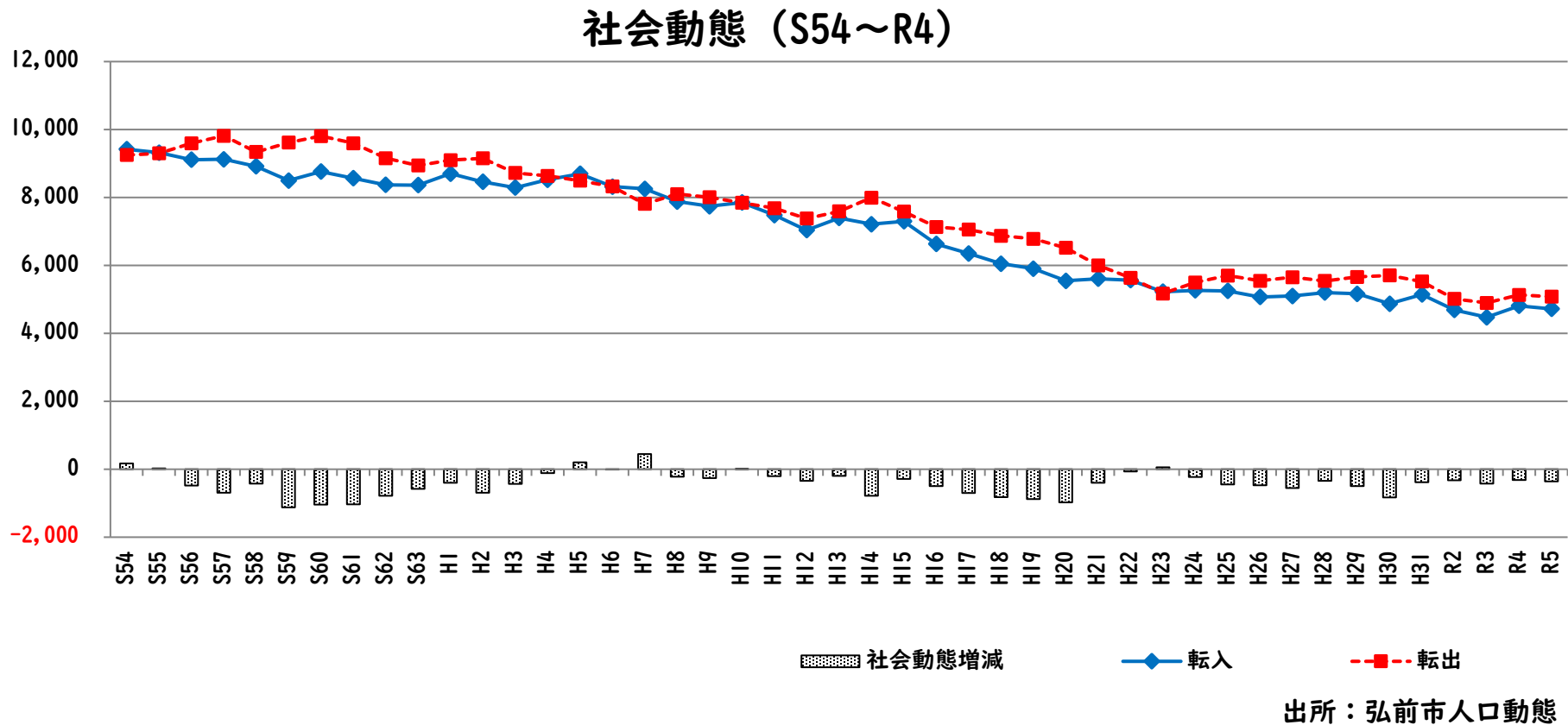
自然動態の推移 (S54~R5)



出所：弘前市人口動態

- ・ 出生数は、一貫して減少傾向
- ・ 死亡数はS62年頃までは横ばいで推移し、以降は増加傾向

社会動態の推移 (S54~R5)



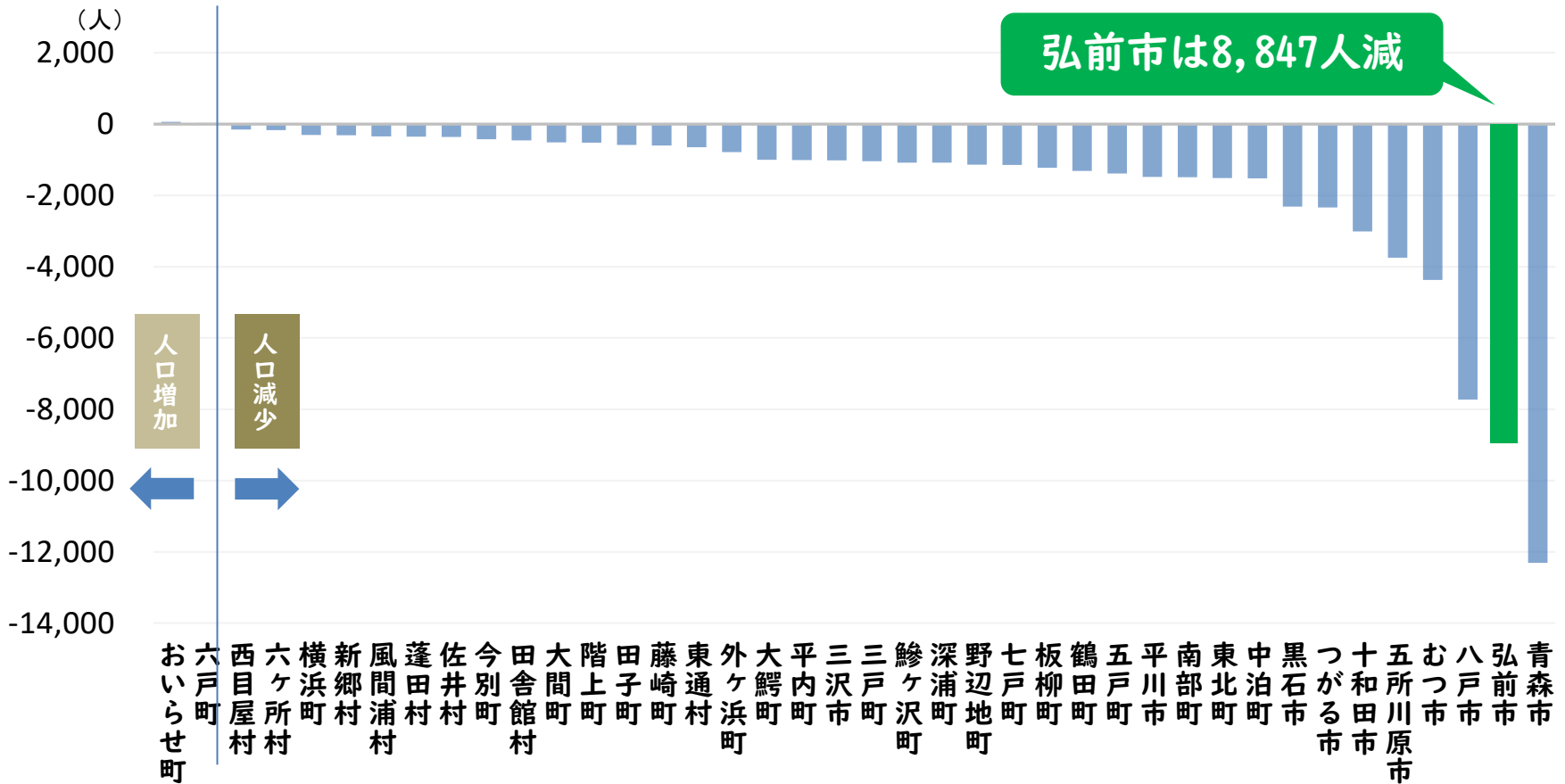
- ・社会動態増減は、ほぼマイナスで推移
- ・人口の減少とともに、転入・転出数も減少

弘前市 人口動態の推移

		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
社会 動態	転入	5,071	5,099	5,201	5,165	4,870	5,142	4,687	4,471	4,810	4,721
	転出	5,547	5,650	5,542	5,661	5,702	5,526	5,014	4,894	5,131	5,078
	社会増	-476	-551	-341	-496	-832	-384	-327	-423	-321	-357
自然 動態	出生	1,244	1,140	1,231	1,157	1,119	1,005	1,041	939	863	836
	死亡	2,252	2,286	2,358	2,332	2,306	2,440	2,447	2,610	2,684	2,764
	自然増	-1,008	-1,146	-1,127	-1,175	-1,187	-1,435	-1,406	-1,671	-1,821	-1,928
総増加		-1,484	-1,697	-1,468	-1,671	-2,019	-1,819	-1,733	-2,094	-2,142	-2,285

青森県の市町村別5年間の人口増減数

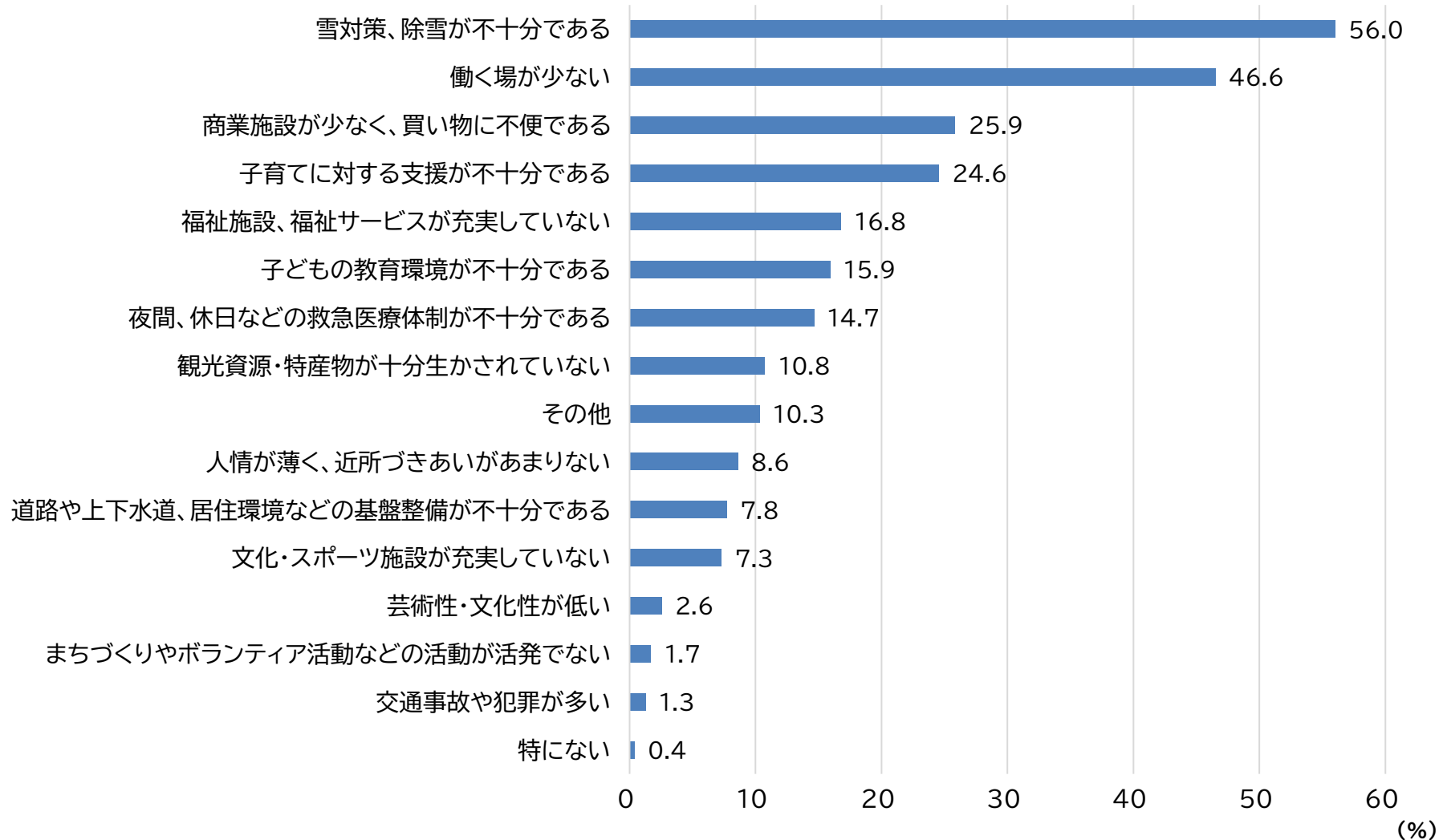
※2015年～2020年



(資料：令和2年国勢調査)

弘前市が住みにくいと思う理由

※回答者は3つまで回答



(資料：弘前市「令和5年度弘前市市民意識アンケート」)

人口減少の影響

- ▶ 小売・飲食・娯楽・医療機関等の縮小
- ▶ 税収減等による行政サービスの低下
- ▶ 社会インフラの維持
- ▶ 地域公共交通の撤退・縮小
- ▶ 空き家・空き店舗・工場跡地・耕作放棄地の増加
- ▶ 町会、消防団、地域の祭り、除雪オペレーター等の担い手不足
- ▶ 学校の統廃合

人口減少・少子高齢化を止めることは難しい…

→少しでも人口減少幅を減らしながら、人口減少・少子高齢化が進む中で、“できること”を探っていく

弘前市は暮らしやすい？

いい部屋ネット

街の住みこことち&住みたい街ランキング2024<青森県版>

1位

住みこことち

1位

行政サービス

1位

賑わい

1位

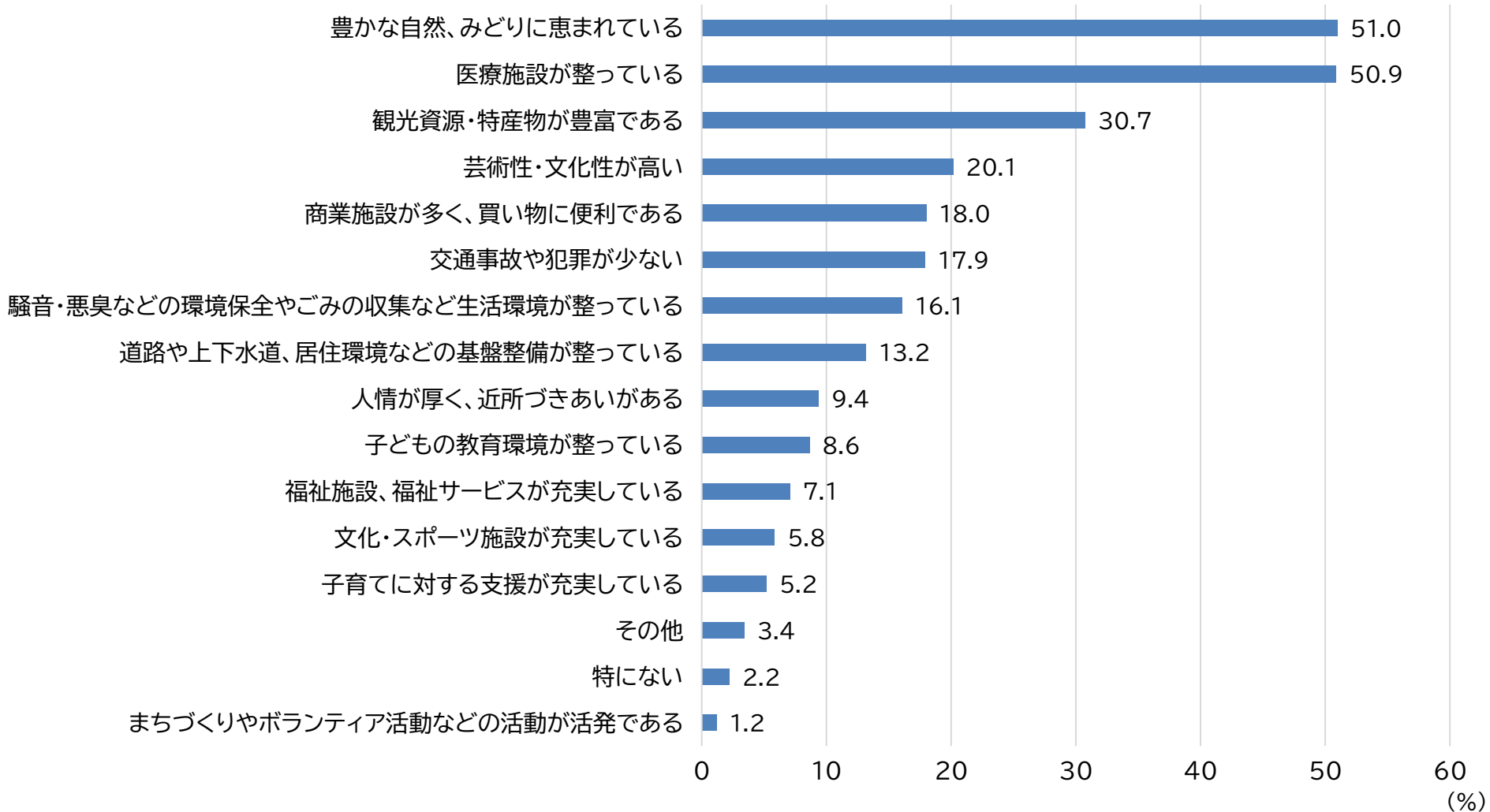
生活利便性

1位

親しみやすさ

弘前市が住みやすいと思う理由

※回答者は3つまで回答



(資料：弘前市「令和5年度弘前市市民意識アンケート」)

弘前市に住むことについての意識

Q. 弘前市は住みよいまちだと思えますか？

A. 住みよいと感じている …

54.8 %

Q. 弘前市は住みよいと思う理由は？

- 1 豊かな自然、みどりに恵まれている (51.0%)
- 2 医療施設が整っている (50.9%)
- 3 観光資源・特産物が豊富である (30.7%)

弘前市 移住者の推移

移住者数 R6.3.31時点		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
全体	件数	1	7	22	32	24	30	46	55	26
	人数	2	14	38	64	38	42	70	77	41
うち東京	件数	—	—	5	21	11	14	10	13	12
	人数	—	—	8	37	14	21	21	19	23
施策 利用者	件数	—	2	9	12	11	5	5	13	11
	人数	—	2	10	27	20	8	8	27	18

		R5 (2023)	計
全体	件数	71	314
	人数	122	508
うち東京	件数	18	104
	人数	33	176
施策 利用者	件数	36	104
	人数	66	186

※弘前市における「移住者」とは？

…ひろさき移住サポートセンター（弘前市窓口・東京事務所窓口）の相談や移住制度を通して移住した人

市の現状

■転出超過の継続

人口減少を抑制する施策が必要

- ・定住支援
- ・移住を促進するための効果的なUJIターン対策
- ・Uターンを検討している人への積極的なアプローチ

■若者の流出

国立大学法人弘前大学をはじめ、5大学が立地

⇒高校・大学卒業のタイミングでの県外転出が多い

■弘前圏域全体での人口減少の深刻化

圏域全体で連携しての取組が必要

■移住検討者、移住者のニーズに沿った情報不足

仕事・住まい、コミュニティなどに関する情報の充実を図ることが必要

市が目指す姿

子育て支援の充実・新たな雇用の創出
+
持続性のある効果的な移住促進施策

→移住・定住促進
→社会移動による転出超過の縮小



人口
減少
の抑制

関係人口の創出などによる
地域内外の人材の交流



多様性の
ある
まちづくり

政策課題指標（弘前市総合計画）

2026（令和8）年度の

社会移動数の転出超過

300人

期待する成果

移住者の増加
+
住み続けたい人の定住



人口減少の抑制



消費喚起効果、新たな雇用の創出、産業の担い手の多様化



新たな価値観の創出

移住検討者・移住者への効果的な情報発信 + 各種支援策



移住・交流の促進



地域の活性化

弘前圏域全体での移住者受入態勢強化



幅広い生活スタイルの提案

②政策成果指標（弘前市総合計画）

2026（令和8）年度の

ひろさき移住サポートセンターを
経由しての移住者数（累計）

583人

■ 弘前市の人口の現状

■ 移住・定住推進の施策

ひろさき移住サポートセンター東京事務所

首都圏在住者の移住を促進するため、平成28年度から「ひろさき移住サポートセンター東京事務所」を運営。移住相談の窓口を設け、仕事や住む場所などの情報提供を行っているほか、首都圏で移住関連のイベントを開催

・所在地: 東京都千代田区有楽町2丁目10-1
東京交通会館6階

・業務内容: 移住相談、職業紹介、各種移住セミナー
の開催、首都圏のネットワークづくり

など



首都圏若者コミュニティづくり推進事業

将来的なUターン者及び関係人口の増加を図るため、東京事務所において若者中心に集まりつながる機会となる「ひろさきコミュニティ・ラボ」を開催しネットワークを構築するほか、首都圏在住大学生のインターンシップを実施



〈効果〉

1年を通して「ひろさきコミュニティ・ラボ」に参加する若者が増加することにより、若者と当市の繋がり、若者同士の繋がりが強化される。

首都圏の若者のコミュニティが活性化される中で地元愛が育まれ、関係人口の増加や将来的なUターンを期待するもの。



移住お試しハウスの運営（移住推進事業）

弘前圏域8市町村への移住を希望・検討している方に、生活環境などを知ってもらうため、一定期間生活体験ができる、「移住お試しハウス」を運営



所在地：青森県弘前市土手町（集合住宅の一室）

利用料金：無料

※市が紹介（提供）する体験プログラム1つ以上への参加が必須

弘前圏域移住交流推進事業

弘前市・黒石市・平川市・藤崎町・板柳町・大鰐町・田舎館村・西目屋村の連携により、移住者の受入態勢を構築し、圏域での移住定住を促進するため、移住交流専門員を設置のうえ各種取組を実施



主な事業内容

- ・移住者交流会の開催（年2回）
- ・全国移住イベントへのブース出展（年1回）
- ・学生向け移住PR事業

R5は高校7校、大学3校に対して実施



弘前でつながる関係人口創出事業

地域の担い手として期待される関係人口を創出するため、県外在住者を対象に、当市の魅力ある伝統文化など様々な分野で地域の人とつながる仕組みを構築するほか、地域内外の様々な人がつながり活躍することができるコミュニティを構築



弘前の「人」関係人口創出プログラム
Antre!
参加者募集!

「Entre! ねぶたコース」30名を超える参加者の募集が弘前市に始まりました。ねぶたを軸に地域と継続的に関わるコミュニティが生まれています。地域の人々と深く交流しながら伝統文化の継承や地域活性化に向けて活動してください。

ねぶたコース
300年の歴史がある弘前ねぶたまつり期間(8月1日~7日)の前後に滞在し、運行団体に加入してねぶたまつりの準備や当日運行を手伝いながら交流を行います。

01 オンライン説明会日程
5/26(日) 13:00~13:00
5/29(水) 13:00~
5/31(金) 13:00~
6/1(土) 13:00~13:00
6/3(月) 13:00~
6/5(水) 13:00~
6/9(日) 13:00~13:00

02 滞在日程
A 7/30(水)~8/4(日) | B 8/3(金)~8/8(水)

ねぶた制作 | 当日運行体験 | ねぶた解体

03 募集要件
1. 年齢: 高校生以上の学生(大学生は問いません)
2. 性別: 男性・女性
3. 学費: 社会人 22,800円 | 学生 11,000円(滞在費別、保険料込み)
4. 住所: ORANDIの二階(HEROSAKI ORANDI アスタハウス)
5. 費用: 実費精算を前提の上、webサイトから申し込みください
6. その他: 一般社団法人Next Comments Lab弘前(担当: 栗木、石山)
7. 問い合わせ: nd.ninosaki2@gmail.com

申し込み締切 6/12(水)

注意事項
- 弘前への交通費や宿泊費の返済などはありません
- 弘前市内の移動は徒歩です
- プログラム実施日、変更は参加者の皆様へお知らせいたします



関係人口創出事業

伝統文化や、兼業を通じた関係人口の創出

弘前の暮らし体験事業

4泊5日~13泊14日の期間で弘前の暮らしを体験

交流・活躍の場創出事業

交流拠点で特技や経験を活かし活躍できる機会を創出

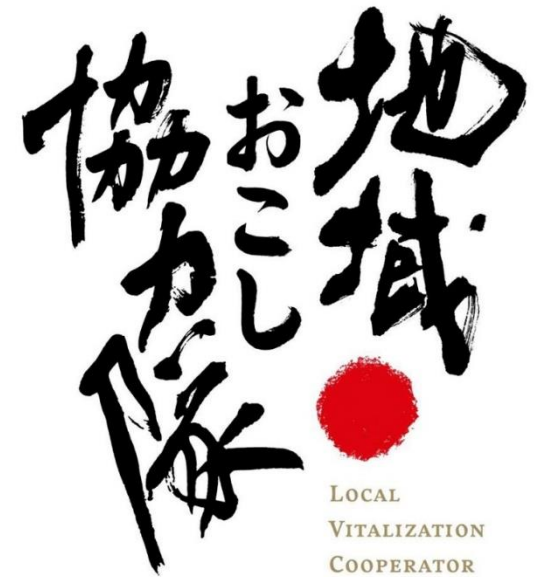
地域おこし協力隊導入事業

○制度概要

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域ブランドや地場製品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化を図っていくことを目的として、総務省が創設した制度

隊員一人につき520万円を上限とした財政措置がある。

- ・弘前市で活動する地域おこし協力隊 4名 (R6.6.1時点)
- ・青森県で活動する地域おこし協力隊 55名 (R6.4.1時点)
- ・全国で活動する地域おこし協力隊 7,200名 (令和5年度に活動)



地域資源の活用



農産物の販路拡大

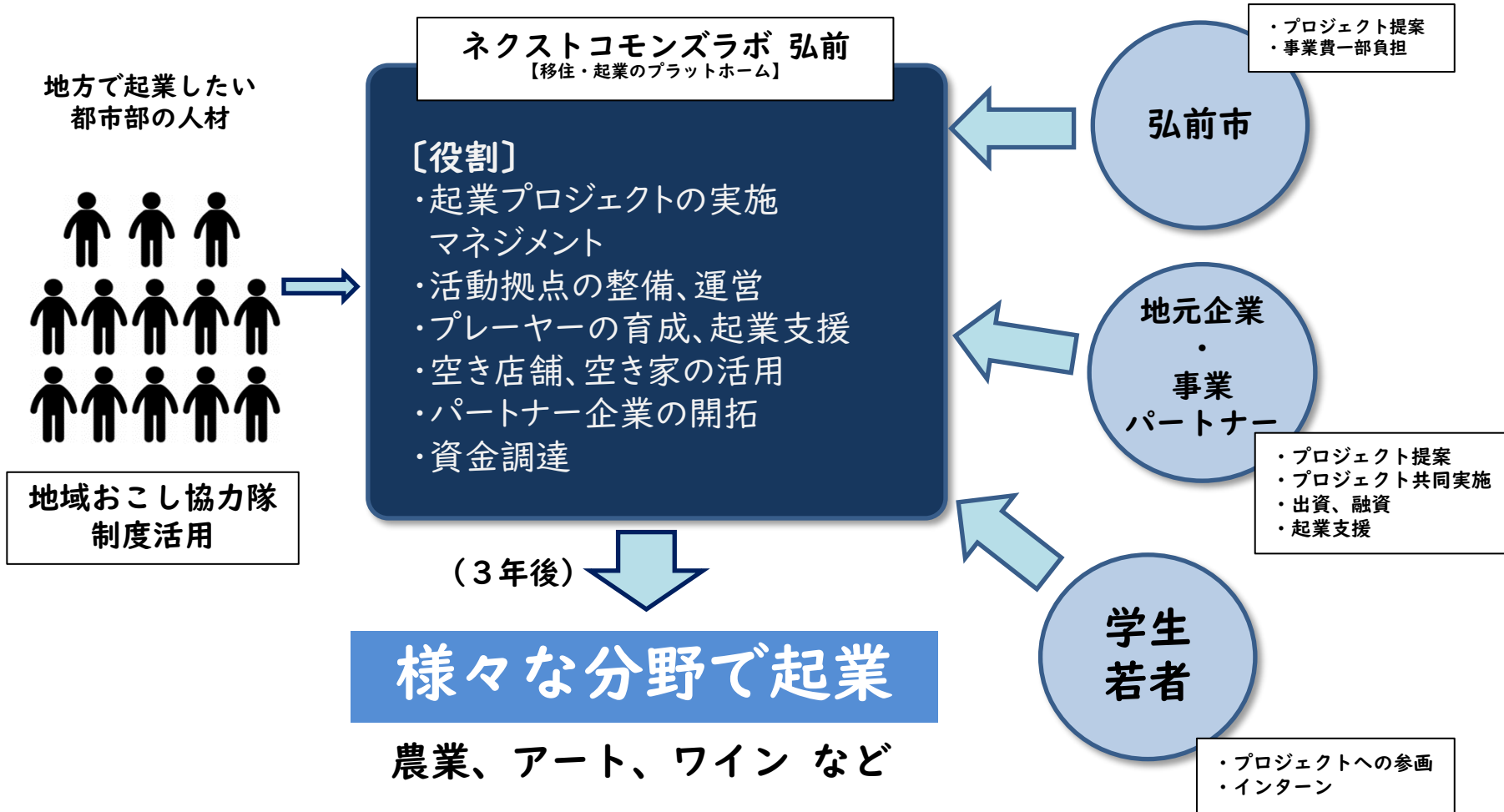


伝統工芸の担い手育成



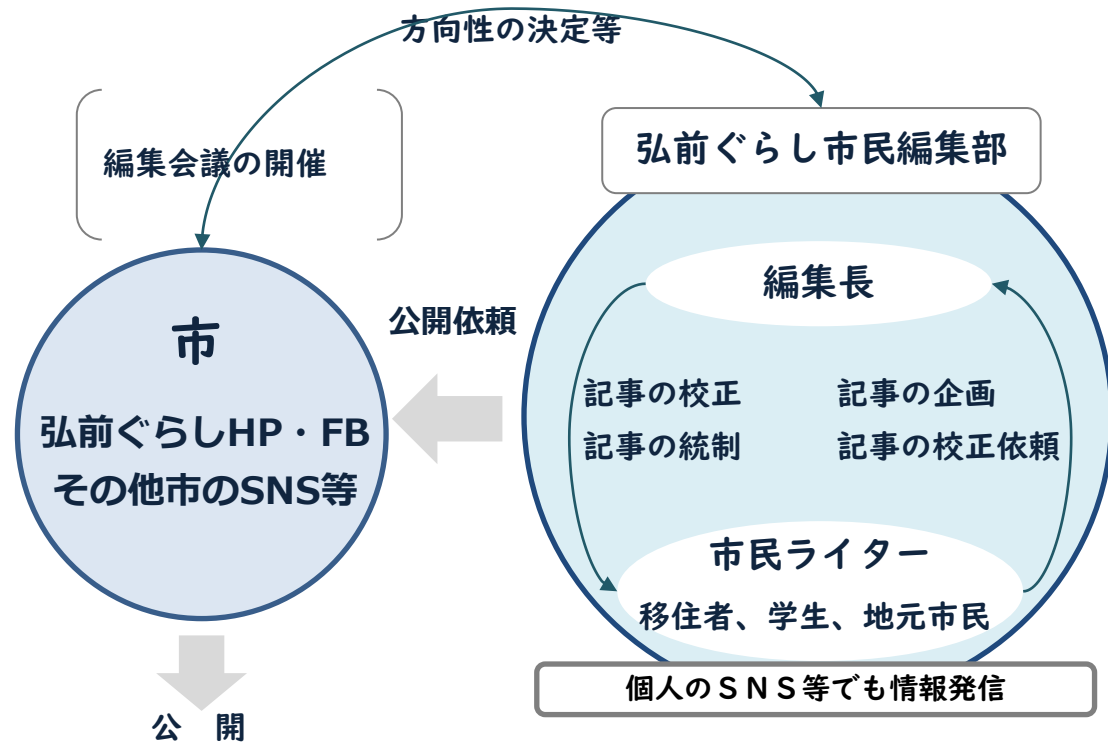
ひろさきローカルベンチャー育成事業

都市部の人材によるローカルベンチャー（地方での起業）を育成するため、地域おこし協力隊制度と連動して、移住・起業の受入組織を拠点に、地域資源を活用した様々な起業プロジェクトを実施



弘前ぐらし市民編集部運営事業

本市の市民ライター養成講座を受講した市民ライターが、移住ポータルサイト「弘前ぐらし」や市のSNS等において、地域住民ならではのリアルな暮らしの情報を発信するなど、市民協働による情報発信を展開



〈効果〉

- ・移住ポータルサイト「弘前ぐらし」等の充実によるアクセス数の増加
- ・効果的な情報発信による移住・交流の促進
- ・市民ライターの育成による市全体の情報発信力強化

その他の事業

○移住推進事業

移住者を増加させるため移住検討者に対し、当市に住まうことの魅力を効果的に発信

○ひろさきUJIターン促進事業

弘前に住まうことの魅力を紹介するイベントの実施や全国的な移住イベントへの参加等により、本市出身者を中心とした移住検討者の掘り起こしを実施

(参考) 弘前めぐりあいサポーター出愛創出事業

※移住・定住対策ではありませんが、人口減少対策として行っている事業です。

晩婚化・未婚化が進み、平均初婚年齢及び平均出生時年齢が年々上昇していることから、周辺の市町村が連携し、独身者の出会いの場を創出するとともに、婚姻者数の増加及び結婚に対する意識の高揚を図ることを目的に、ひろさき広域出愛サポートセンターを設置しお見合い支援を実施するほか、婚活イベントやセミナーを実施

1対1のお見合いの支援

+

多彩な婚活イベントや
セミナーの開催



会員数 326名
(男性215名、女性111名)

出愛サポーター(仲介人)
47名

成婚数
35組

R6.6.30現在

